

私たち、こんな活動をしています

### がん看護専門看護師 松尾留美子

病棟でがん看護概論の学習会を行いました。そして、卒後基礎教育中のスタッフが、がんの受け持ち患者の看護の振り返りを行うために、事例検討を行いました。また、後半期はデスカンファランスを行い、支援できたこと、できなかったこと。そして学びを今後活かしていけるよう、支援したことの意味についての振り返りを行いました。今後は、倫理的なカンファランスも行っていければと考えています。

### 感染管理認定看護師 近藤明美・岩本さゆみ

今年度は『病院機能評価受審』があり、院内の整備やマニュアルの改訂などを行いました。現在SSIとBSIのサーベイランスを行っていますが、UTIやVAPについても行うようにと評価があり次年度より取り組むように計画しています。また現在問題となっているAMR(薬剤耐性)の対応として、抗菌薬の適正使用についても更に対策を強化していきたいと思います。皆様のご協力をお願いします。

### 集中ケア認定看護師 立石奈己

今年度から、専門領域別研修セミナーを「クリティカルケアセミナー」と一新し、呼吸・循環のフィジカルアセスメントを中心に、講義を展開しました。参加率・満足度は80%を超え、80%以上の受講生の皆さんに、自己目標が達成できたとのコメントを頂きました。資料などを臨床で活用して下さいている受講生もあり、来年度も皆さんのお役に立てるように頑張りたいと思います。

### 新生児集中ケア認定看護師 前田知子

今年度は、小集団と一緒に産前訪問に関わり、スタッフと一緒に活動ができました。中には、正期産まで妊娠継続でき、退院や転院ができ、母親とともに喜びを感じることがあり嬉しく思っています。また、出生後、母親がNICUに面会に来られない場合、ICUやHCU、4西へ、産まれた新生児の様子や写真を渡し、不安な母親への産後訪問を行ってきました。初めての周産期セミナーでは、HCU・OP室・外来から参加があり来年度も継続していく予定です。



### 皮膚・排泄ケア認定看護師

森山やよい・中島由香里

今年度は、スキンケアナース養成コースを行い、新たに2名のスキンケアナースが誕生します。次年度はスキンケア基礎コースを計画しています。年々新しい情報が増えています。興味がある方は是非、受講してください。スキン-テア(摩擦やずれで起こる皮膚裂傷)についてセミナーや伝達講習を行っていますが、まだ十分に浸透できていません。日常生活の中で起こる場面があり注意が必要です。また、次年度の診療報酬改定で危険因子評価内容にスキン-テアが加わります。褥瘡対策委員と一緒に広めていきますので、スキン-テアの知識・技術を覚えて下さい。

### 母性看護専門看護師 峰原奈緒子

外来からNICUを含めた母子と家族の援助をスタッフとともに行ってきました。次年度は、NICUにとどまらず、GCU、小児病棟や外部の訪問看護とも援助を考えていくことができるように自身の学びを深めていきたいと思います。また、倫理に関して考えられるような職場風土が醸成されるシステム作りをしていきたいと考えています。これまで地域の方と一緒に新生児蘇生法に関する学習会等を行ってきました。実践を振り返るスキルアップコースの学習会を次年度は行っていきたいと考えています。

# 「年間活動報告特大号」

## 小児救急看護認定看護師 中園 由紀子

今年度は、「医療的ケアの必要な患者」の退院支援において、医師、スタッフ、多職種と共にカンファレンスに参加することや家族への指導を通して、在宅における課題や目標達成に向けた支援を行っていきました。今後も在宅における家族への急変時対応指導や院内外スタッフと連携を図りながら、患者や家族が安心して療養生活がおくれるように支援していきたいと思います。

## 救急看護認定看護師 小林 望

今年度は「災害看護」を中心に、救急看護セミナーや院内災害対策実働訓練に取り組みました。災害モードに意識を切り替え行動するためには、今後も定期的な実働訓練を行うことが必須であり目標です。さらに11月からは、院内トリアージ実施料の算定が開始となりました。今後もトリアージナース育成プログラムや事例カンファレンスを継続し、トリアージの質の維持・向上を図っていききたいと思います。

## 「訪問診療を始めました」

がん拠点病院緩和ケアチームの役割として、抗がん剤治療中から治療直後にかけての速やかな苦痛症状の緩和に加え、希望の療養場所への移行支援という大きな役割があります。佐世保市内の現状として、人生の最終段階にある患者さんが最期まで住み慣れた自宅でという希望があり、訪問看護が入っていても、最終的には元の病院に緊急入院し、最期を迎えざるを得ないことがしばしばあります。そこでこの度、当院緩和ケア科が在宅主治医になって、できるだけ住み慣れた家での生活をサポートしようと考え、地域の訪問看護ステーション、開局薬局と連携して訪問診療を開始しました。

## 緩和ケア認定看護師 濱口幸人

## がん化学療法看護認定看護師 川崎由紀子・大柳一彦

今年で院内認定化学療法サポートナース3期生6名、これまで26名が誕生し、外来・病棟での血管穿刺・投与管理、化学療法を受ける患者の安全を守るという役割意識を持ち活動しています。3月の修了式では、澄川院長や緒方看護部長の参加もあり、温かいメッセージを頂きました。今年は育成セミナーはお休みとしますが、化学療法サポートナースの活動支援や曝露対策の強化に取り組んでいきたいと考えています。特に抗がん剤投与に関わる看護師他スタッフへの曝露予防として、個人PPEや抗がん剤専用輸液セット導入の準備が整い次第、周知をしていきたいと思います。よろしくお願い致します。

## 乳がん看護認定看護師 坂口ひとみ

今年度は、乳がん告知時し積極的に同席し、心理的サポートから初期治療選択の支援を行い、がん患者指導管理料1を算定しました。乳がん患者さんは外来フォローの期間も長く、再発や転移による乳がん治療も多岐にわたります。次年度は、再発転移乳がん治療を継続している患者さんへの看護ケアも実践していきたいと思います。また、作成した乳がん手術を受ける患者さんを対象としたパンフレット2種を活用していきたいと思います。また、乳腺チームが発足したこともあり、外来だけでなく、病院内での活動を目指したいと思います。

## がん放射線療法看護認定看護師

### 鼻崎智美

今年度は、放射線性皮膚炎に対するケアの充実に向けて取り組みました。皮膚炎のグレード評価別のケアのポイントについてパンフレットを作成し、皮膚炎が出現しやすい患者さんが多い部署へ配付しています。皮膚炎は治療終了後徐々に改善しますが、苦痛が強い症状の一つでもあります。適切なケアを行うことでより安楽な治療が提供できるよう来年度も引き続き取り組んでいきたいです。